

学びの本拠地、ホームタウン検沢 (HOMETOWN HISAWA)

桜っ子だよ!

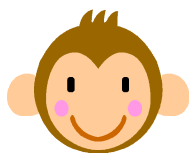


平成28年1月14日(木)

検沢小学校だより No.11

文責: 校長 星 俊 夫

☆明けましておめでとうございます。3学期がはじまりました。



3学期が始まりました。子ども達は、冬休み中大きな病気や事故もなく元気に過ごしていたようなので心からうれしく思います。いよいよ今年度のまとめの時期になりましたが、寒さにつまづかず、健康と安全に留意しながら、新年度に向かいたいと思います。**2016年、笑顔かがやく心豊かな環境をめざして!**保護者の皆様、地域の皆様、ご協力とご支援よろしくお願いいたします。

☆祝 誕生

昨年12月26日に、星 典子先生が、赤ちゃんを無事出産しました。
名前は、^{まなみ}満奈心 ちゃんです。
心よりお祝い申し上げます。

☆最優先は、子どもの強み(よさ)に目を向けること

今日も、玄関を掃除する子どもたち、校内の廊下を掃除する子どもたち、朝の放送をする子どもたち、学級の係の仕事をする子どもたちの姿が見られます。年間を通して、学校に来る早々子どもたちはそれぞれ自分の係の仕事に取り組んでいます。おかげで、学校の外も中も一年中整然とした中で、授業を始めることができます。

5校時前の清掃の時間は、1年から6年生までの縦割り班なので、高学年の子どもたちがリーダーになり要領よく下の学年の子どもに教えながら取り組んでいます。当たり前の活動なのですが、子どもたちの姿に最近心地よさを感じることが多くなってきました。

お知らせしましたとおり、2学期末の学校評価の結果では、「学校が楽しい」「友達と仲良く生活する」「朝ごはんは毎日食べている」等の項目が児童・保護者・教師ともに高い評価でした。そんな結果が、日常の子どもたちの姿に真に表れているのかなあと肌で感じられるからかもしれません。

今年度も、子どもたち一人一人の課題をしっかりと理解するとともに、一人一人の長所や個性をその子の「強み」ととらえ、子ども自身に気付かせ、生かし伸ばしていくことを学校で何よりも大切にしていこうと取り組んできました。

どんな子でも「胸をはれる」ことがあるはず。小さなことでもみんなで大切にし、認め合い、子どもたちとともに育て積み重ねていけば、強みはどんどん大きくなっていくと考えます。自信を持ち、ちょっと得意げに胸をはる、そんな子どもの姿を増やしていきたいと思います。



☆ プラス評価のかかわいを！

「君はいつも元気で明るいね」と子どもに声をかけていると、その子はいつの間にか、元気で明るい子どもに育っていく。

これは「暗示」でもあるし、一つの「評価」の方法でもある。
つまり「評価の仕方」で子どもは変わるのである。



上の文は、有田和正という教育者の言葉です。

この言葉のとおり、子どもたちそれぞれの評価は通信簿やテストの点数だけではないということです。周りの人間が、子どもたちに話しかける生の言葉が意欲、向上のきっかけになる「評価」そのものになるということです。

また、言葉だけではありません。プラスの言葉には、ほとんどの場合笑顔が伴います。

「目は口ほどにものを言う。」ということわざのように、まなざし、今で言う「アイコンタクト」は当然のごとく柔らかく温かい表情にあふれてきます。話が弾めば、身振り手振りが自然に加わってきます。

話を聞く方でも、うなずきや相づちなど「傾聴」のし方が、聞き手の誠意ある姿勢を伝えます。

このようなプラス思考のかかわりは、子どもたちに安心感と自信を与え、コミュニケーション・スキルを高める大きな力になってくると信じます。

間違っても、「このクラスは、声が小さいね。大きな声を出して！」などといってははいけない。必ず、ほめることである。

13人のクラスであいさつしたとき、

今、14人くらいに聞こえましたよ。今度は20人くらいの声を出してみましょう」というと、50人くらいの声になる。

ユーモアたっぷりに、「うん、今のあいさつはすごかった。51人くらいの声に聞こえましたよ」といって拍手する。

すると、「先生、もう一度やろう！」という。「いいですね。今度は100人かな？」という、ものすごい声を出す。

参観者も、子どもたちも大笑いになる。

上の事例は、有田氏の授業の一コマです。教育界の巨星は、子どもたちに「授業は楽しい」と感じさせるユーモア教育を提唱しました。

「真の学習とは、「遊び」そのものなのだ。」という言葉も残しています。

心から安心できる笑顔あふれる場所。学校も家庭も同じですね。